



祈り、大切にしていますか

スティーブ神父



皆さんは日々の信仰生活の中で、どのように祈りを大切にしていますか。どうして祈りは必要でしょうか。主イエスは生活の模範として、しばしば祈りをしています。弟子たちはイエス・キリストに「わたしたちにも祈りを教えて下さい」と願いました。そこで、イエスは「天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ますように。」と弟子たちに教えました（マタイ6・9）。

祈りというのは何でしょうか。どうして祈りは信者の日々の生活の中には大切でしょうか。

まず、祈りは神の存在を認めることです。祈りを通して主の存在がはっきりとあらわれます。祈りを通して信仰生活がはっきりと宣言されます。

カトリック教会の素晴らしい伝統の中には、ご聖体聖時間という祈り方があります。カトリック幟町教会では月に2回、地下聖堂で行います。第1水曜日と第3水曜日にします。時間は、午前10時から午後5時までです。このご聖体聖時間の時に何をしますか。この時、神様はわたしたちの生活

の中心です。生活のバランスをとるために神様が中心になります。人は神の似姿に創られました。命は神様から頂いたお恵みです。ですから祈りの時、わたしたちは神様に礼拝と賛美をお返しします。ご聖体の前に感謝の祈りをささげます。またはご聖体の前にもそれぞれの願いを神様に語ることができます。

日々の生活では食事は3回食べるのが当たり前です。祈りも信者として当たり前です。祈りを通してわたしたちは神様と話すことができるのです。そして、祈りを通してわたしたちの時間は神にささげることができます。どうか皆さん、ご聖体礼拝の時間を作りましょう。それは永遠の時間のための準備になります。



召命巡礼に参加して



昭和51年ごろ活発だった信徒協が影をひそめ、当時の熱心な婦人の信徒協の役員たちが「私たち婦人だけでも何かやれる事はないだろうか？」と真剣に話し合った結果、司祭のために、また召し出しを願って、ロザリオの祈りをしようということになり、合同で集まって祈るという会が始まりました。

第1回は昭和50年10月31日幟町教会に市内の教会から45名が集まり、ロザリオ3環をしました。それ以来、聖母月(5月)とロザリオの月(10月)に集まり、現在まで続いています。

そのうち、活動的な方々の中に研修会のような形を取り入れたものにしたらどうか、との意見もたびたびでしたが、「純粋な祈りで始まったこの会はこのままで」という願いでそのまま続けました。

平成3年10月のロザリオの月から三末司教様のもとで、10月は「教区の合同祈りの会」として教区行事として行うよう取り計らって頂きました。祈りの必要を感じられた司教様は婦人だけでなく、定年を迎えた壮年の方々にも祈って頂くようにとのご配慮もあり、以来10月は、広島、山口、岡山の持ち回りになる。小教区では35年、教区としては19年続いています。

今年、9月20日に行われた召命巡礼に参加した皆さんに感想を伺いましたので紹介します。

今年は特別の暑さの中、中高年の方々が、汗びっしょりで歩かれました。(積極的にひたすら召命を願って)神様のはからいで必ずみんなの願いは聞きとどけられると確信しました。歩かれた人の顔はバラ色に輝いていました。私にはまぶしく見えました。

《70代女性》

毎年参加して、ずっと歩いています。

最近はある年波で1区間かミサのみの参加です。召命、若い人たちを生み出してほしいと祈ると同時に、いま働いている聖職者が元気で働いてほしいと祈っています。この行事は同じ顔ぶれの参加になっていますが、家族連れ、子ども連れで参加をしてほしいですね。

《70代女性》

最初からずっと参加しています。5～6年前から幟町から祇園まで行くことができましたが、今は体力的に難しい。最初から参加していた人も、天国に行かれた人が多いですね。召命だけを願っている人たちの巡礼を神様は聞いてくださると思う。

《70代男性》

今まで15回は来ていると思う。普段はこんなに歩くことはないので疲れます。少しでもキリストの十字架の道を思いながら歩くのはいいと思う。これからも続くとよいですね。

《幟町お手伝いの女性3人》

初めての人、一粒会の役が回っていて初めて認識した。朝早くから準備したが、大変とは思いません。楽しく喜んでしています。

《6歳の女の子》

おばあちゃんと来た。観音教会から三篠教会まで歩いて疲れた。でも自動車に乗りたいとは思わなかったです。三篠教会に着いたときは嬉しかったです。来年は小学校だけど、また来れると思います。

《大人の女性》

巡礼の回数を重ねると、最初よりも大分楽になっている。召命のことを祈るだけでなく、歩きながらいろいろな人と出会いがあり、分かち合うのが楽しいですね。

《大人の男性》

4キロは近いようで遠かった。汗をかきましたが、一粒会の役員ですから来年も巡礼します。青年が少ないのが淋しいですが、三篠の侍者をしている男の子が参加したのが良かったですね。

(11月号では、巡礼中に講話のあった長崎純心聖母会のシスターの話を紹介します。



北海道への旅

東雲地区 HM



8月21日信徒仲間5名で車で北海道を目指す旅にでかけた。

この5名無謀と

言うか暴挙をたしなめられ、若い人はこぞって反対する。80になる老人が何ちゅうことを考えとる、他人の迷惑も考えろ…そんな中でのスタート。佐久で高速道から普通道に抜けて草津、それから榛名山の頂上に登り前橋へ。朝7時前に前橋でミサに与る。前橋の主任神父と岡山の早副神父が同窓生だそうで、早副神父は元気かなどと聞かれた。

日光へ下るいろは坂で大渋滞、日光をパスして宇都宮、それから青森まで駆ける。翌日連絡線に乗り北海道へ。着いて見れば引き締まった背の高い青年がいる、後藤神父だがそうは見えない、初めて知るのだが後藤神父は実家で一人生活をしてるそうだ。何もかも一人でやるのなら広島に居ても同じだと思う。

お父さんが入院中、お母さんが保養所になればそれも自然の成り行き。翌日トラピストの早朝ミサに与かる、様式美と言うか荘厳な気がする、昼を後藤神父の実家でマトンの焼肉をご馳走になる。函館2泊して青森へ今日も長駆して会津若松へ。小郡から新潟へ進路を変えた、一泊して途中黒部溪谷のトロッコ列車に乗り、この旅最後の宿泊地福井へ向かう。この都市も何時来るか分からぬ新幹線の駅を作る愚挙をなじりたいが紙面が無い、8月28日7時暴挙が終わる。

第一印象

東雲地区 KA

門を潜り、御聖堂に向かって歩いていくと左側に位置する司祭館の窓から、司祭が席に座っているのがちらりと見えます。

ご聖体訪問を済ませ、司祭館の扉を叩くと、どうぞお入りください、との声。

扉の傍らには、「今出掛けています。すぐに帰ります」「聖堂にいます」等々、4～5枚の札が掛かっています。何時客が訪れても司祭の所在はすぐに分かります。

神父が教会に居るということで、布教の第一歩だという事をよくご承知の、広島出身の司祭でした。

教会訪問で広島から参りました、と名乗ると、それでは次の教会へ案内しましょうと、席を立ち、自家用車で2か所の聖堂へ案内してくれました。

電車・バス・徒歩が原則の巡礼で、自動車に乗ってなど、自分の立てた方針をすぐに変更するのが良いところで、無事、509番目の聖堂を訪問することができました。

半数以上の日本中の聖堂に鍵が掛かって

いて、外からお祈りをして次に回るという経験を続けていると、教会は人がいてこそ初めて生きた教会と言えるのかな、と感じます。

都内駅構内の喫茶店でコーヒーを飲んでいると、十分過ぎたころ、「貴方は切符を落としましたか」と届けてくれる奇跡にも遭遇しました。

クリスマス当日スタッフ募集！

実行委員会では、早くもクリスマスの準備を始めています。

教会に初めてこられる方も多いクリスマス。今年はスタッフとして参加しませんか？

日ごろは教会の運営に携われないけど 当日だけならお手伝いできるという方、大歓迎です。

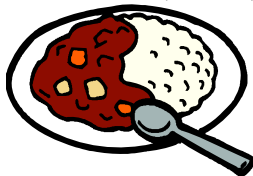
詳しくはお知らせボードをご覧ください。

編集後記



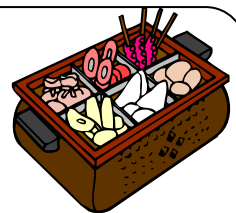
記録的な暑さも彼岸を境に、一気に秋めいてきました。あまりの急な変化に、皆さま健康には十分気をつけてください。朝散歩をしていたら、空にはオリオン座が見えました。秋から冬へもゆっくり進んでいるようです。(ひ)

みんなで楽しみましょう



教会バザー

10月31日(日)9時半ミサ後から



ご家庭に眠っている家庭用品・衣類などがございましたら、ご寄附くださいますようよろしくお願いいたします。買い物袋(デパートなどの紙袋など)もお願いします。

バザー実行委員会